

1年で一番美しい季節になってきました。文字通り風が薫る5月ですね。そして新学期が始まりひと月が経とうとしています。毎年のことながら、この時期になると「五月病」という病気が突然流行り始めるようです。新入生や新入社員が教室や職場に適應できず、うつ病のような傾向が症状だそうです。実は幼稚園児にも同じような症状があります。日本の場合、入園は4月上旬、そして何もわけが分からず幼稚園に通いだした新入園児が、ゴールデンウィークで生活リズムが崩れ、そして集団生活ではない、家族だけの快い生活を楽しんだ後、急速に「自我」が目覚め始めます。そして先生の言うこと(つまり指示)を何故聞かなければならないのか、何故自分のやりたいことをやりたい時間にできないのかという矛盾が心の中に現れ、それが登園拒否へと繋がっていくことがよくあります。しかし新しい環境に適應できないのではありませんので、五月病という名前では呼ばれていません。ではこの新入園児たちの症状、5月に限定されて現れるのかというと、一概にそのようには言い切れません。私はよく保護者の方に「登園拒否と言う子供の成長」の話をします。3歳児であろうと5歳児であろうと、自分のやりたいことをやりたい時間にできず、やりたくないことをやりたくない時間にさせられることに関して、疑問を感じたとき、子供は一つ成長し、その成長の証として登園拒否やわがまま、乱暴などの行動が表面化します。実際にこのような実例があります。A君は年少の4月から入園し、順調に園生活にも慣れてきました。年中に進級して、初めのうちは年少さんの面倒を見てくれていたりしていたのですが、ある日、幼稚園に行きたくないといって登園を拒否し始めました。お母さんはあれほど楽しんで登園していたのに、どうしてしかも年中になって登園拒否になったのが、原因が解らず困っていました。本人も別に幼稚園で嫌なことがあるのではなく、ただ行きたくない気持ちが強いただけだと言っていました。そこでお母さんに「毎日登園できる時間に起床すること。いつからいくのかを約束させること。そして幼稚園の時間帯は家庭で相手をしないうこと。」を条件にお休みさせることにしました。1週間、2週間経っても登園してきません。とうとう心配したお父さんが相談に来られました。そこで私は「人間はやりたくないこともやって生きてるんですね」と答えました。その翌日からA君は登園を始めました。お母さんの話ではお父さんが相談から帰ってこられて、A君に「お前のやっていることはわがままと言うんだよ。それは正しいことではないんだよ。お父さんも仕事が嫌でも会社に行って働いている。お母さんも疲れていてもみんなの料理を作ってくれている。そうやって自分だけ勝手気ままに振舞うことは、お父さんは嫌いだ」というような話をされたそうです。それまで下の男の子で可愛いだけで育ってきたA君にお父さんは親としての覚悟を決めて話をされたのだと思います。一方、年少の女の子のBちゃんは5月になると登園を拒否しました。理由は面白くないからだそうです。実際に気ままに育っていたBちゃんはみんなと遊んでいても、すぐに遊びの輪から外れ、自分のやりたいことを気ままに幼稚園でもやっていました。年長さんが咎めても言うことを聞きません。何度か先生に叱られているうちに、登園を拒否し始めるようになりました。お母さんと相談しましたが、お母さんはBちゃんの思いの通りできない環境が悪いというようなお話をされていました。そしてお父さんも相談に来られたのですが、お母さんはあくまでBちゃんは悪くないといい続けました。そしてある日突然、退園届けを提出して来られました。

ある雑誌の記事では「最近の子供は変わったと言われているが、それ以上に親が変わった」と書いてありました。そして多くの親は「過保護の親」になっていると指摘しています。確かに今の幼稚園や小学校の親の世代は、教育の問題が山積みとなっていて、そして世界的には価値観が大きく変わった頃に子供時代を過ごしています。その影響か、どこかに教育や学校に対する拒否感や不信感を持っているようです。そして「良い親だと言われたい」「親子ともども失敗してはいけない」「子供に幼稚園や学校で嫌なあわせたくない」しかし「自分の価値観には拘りたい」と思っている親が多くなってきているそうです。

そんな親達に「子供はできないことが多いのが当たり前。しかしいつか親を超えて行ってします。いつまでも子供の親はいることができない」ということをしっかりと理解し、親としての覚悟を持って子供を育てることが大切だと結論付けています。

私自身、決して良い親とは思っていません。そして子供が幼稚園児だった頃、小学生だった頃、そんな覚悟も、そして落ち着いて人様に自分の子育てを話すこともできませんでした。ただ毎日が体当たりで、手探りで、正解を求め、それを見つけないことができずまた手探り状態で子供と過ごしていました。そして今でも正解は分かりません。でも親であることへの覚悟はいつも感じて生きてきました。親であること、大人であることへの覚悟。日々の生活でももっともっと大切にしていきたいと思えます。

《 つづく 》